

島根かみあり国スポ・全スポ 2030 に向けて

出雲県土整備事務所 都市整備第一係長 大野 康

はじめに

国民スポーツ大会（国スポ）とは、都道府県の持ち回りで毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。

正式競技では、都道府県対抗方式で、天皇杯（男女総合成績第1位）・皇后杯（女子総合成績第1位）の獲得を目指し、代表選手が各競技で熱い戦いを繰り広げます。また、正式競技以外にも、特別競技、公開競技、デモンストレーションスポーツが実施されます。

なお、令和6年（2024年）より国民体育大会（国体）から国民スポーツ大会へと名称が変更となりました。

島根県では昭和57年（1982年）に島根県初となる国体、第37回国民体育大会「くにびき国体」が開催され、このくにびき国体では全国47都道府県から選手・監督等、19,842人が集まり各競技で熱戦が繰り広げられました。

それから48年の時を経て、来たる令和12年に島根県では「島根かみあり国スポ・全スポ2030」が開催されます。

県立浜山公園は県土木部所管の都市公園でありながら、県内最高水準のスポーツ施設を有する公園であり、「島根かみあり国スポ・全スポ2030」において開閉会式会場、陸上競技、高校野球硬式競技及び柔道競技の会場となることが決定しています。

浜山公園陸上競技場

現在の浜山公園陸上競技場は中国04総体のために平成14年（2002年）に全面改修された競技場です。本競技場は日本陸上競技連盟により第1種公認を受けており「日本選手権や国民体育大会など、日本陸連が主催する全国規模、および国際的な大会が開催できる会場」に位置付けられています。毎年4月には吉岡隆徳記念出雲陸上競技大会が開催され、日本代表を目指しトップスプリンターたちが出雲の地に集結します。

また、陸上競技のみではなくサッカーやラグビー等の競技において大規模な大会会場として利用されています。

現在の浜山公園陸上競技場は基本仕様上において以下の点に課題があることから、改修等を行います。

①夜間照明

基本仕様では「夜間照明設備を必要とし、1m220の高さで平均照度が1000Lx程度とする。また、フィニッシュラインは1500Lx以上を確保する。」とありますが、現状では夜間照明設備がありません。

ついては、基本仕様を満足させるためにLED夜間照明設備を4基整備します。



整備後（イメージ）

②スタンド席数

基本仕様では「観客の収容数は少なくともメインスタンドは、7,000人以上かつ屋根付きとする」とありますが、現状では5,900席（人）です。

については、基本仕様を満足させるためにメインスタンド両側にスタンドを増設し不足分の席数を確保します。



③走路

公認競技場規定では「トラックとフィールドの舗装材は全天候型舗装の施設を要する」とあり、現状は全天候型舗装（ウレタン舗装）ですが、整備から22年経過しており老朽化によりウレタン舗装の劣化が進行しています。

については、老朽化対策として全天候型舗装（ウレタン舗装）の更新を行います。



④電光掲示板

基本仕様では「電光掲示板を設置することが望ましい」とあり、既設電光掲示板は整備から23年経過しており機器の老朽化による不具合が多数発生し、大会運営に支障をきたしています。

については、老朽化対策として電光掲示板を更新します。



浜山公園野球場

浜山公園野球場は昭和 49 年（1974 年）に整備され、その後『くにびき国体』では高校野球メイン会場として利用されました。また、県内の球児にとっては高校野球の聖地となっており、今年の夏の甲子園で大社旋風を巻き起こした県立大社高校もここ浜山公園野球場にて県大会を制して甲子園への切符を手に入れました。

現在の浜山公園野球場は公認野球規則上等において以下の点に課題があることから、改修等を行います。

①グラウンド

公認野球規則では「両翼 97.534 メートル、中堅 121.918 メートル以上が望ましい」とされていますが、現状は両翼 91 メートル、中堅 120 メートルしかありません。

については公認野球規則を満足させるために外野の拡張を行います。



②ブルペン

屋外スポーツ施設の建設指針によると「両翼に各 1 箇所 2～3 人用を設置する」とありますが、現在のブルペンは、両翼の内野スタンド沿いのファールエリアに設けられており、ファールエリアが狭いことから 1 人立のものとなっています。ファールエリアのブルペンは利用者の安全面に不安があることや、試合進行の妨げとなる場合があります。

については、ファールエリアの既設ブルペンを撤去し、メインスタンド横のスペースに 2 人立ちのブルペンを整備します。



③内野スタンド席

既存のスタンドは、コンクリート階段スタンド総延長 168m、芝生スタンド 1,060 m² です。今回のブルペンの整備により、コンクリート階段スタンドが中途半端となることから、観客の快適性向上のために、芝生スタンドも含めて内野スタンドはすべてベンチ席に改修します。



おわりに

丸山知事は今年 7 月の定例記者会見において「国体は全国を巡り、開催費のほとんどを開催地の都道府県が負担してきました。近年の開催経費から推計すると、島根県なら大会運営費が 90 億円、施設整備費が 140 億円、競技力向上のための費用が 36 億円かかる見込みです。合計すると、いま島根県が持っている貯金と同じくらいです。個人に例えれば、家を買うためにためていた貯金を丸ごと使うようなものです。」と国スポ・全スポ開催費用に苦言を呈したところです。

浜山公園においても多くの費用を投じてスポーツ施設の改修、整備を行う予定ですが、国スポ・全スポ開催がゴールではなく、国スポ・全スポ開催以降も県内最高水準のスポーツ施設として多くの方々に利用されることを念頭に置き、改修、整備を進めていきます。

「島根かみあり国スポ・全スポ 2030」では以下のとおり、浜山公園以外でも各地で様々な競技が実施されます。皆様におかれましては県内で開催される半世紀に一度のチャンスですので是非とも競技会場へ足を運んでいただければと思います。

